

もっと ちょうだい

主題名 だめなことはだめ

内容項目 公正、公平、社会正義
自分の好き嫌いにとらわれなくて接すること。

ねらい 自分の好き嫌いにとらわれず、どの友達にも公平に接しようとする態度を養う。

主題設定の理由

指導内容について

民主主義の基本である社会正義の実現に努め、公正、公平に振る舞うことに関する内容項目である。

低学年では、発達の特質から、自己中心的な考え方をしがちである。そのため、人も自分と同じ考えや感じ方であると思ひ込み、自分とは異なる考えや感じ方を否定する傾向がある。また、つい、仲の良い友達を優先してしまい、公正に接することの

できない場面もよくある。

そこで、自分の好き嫌いに関係なく、公正、公平に接することの大切さについて、具体的な言動を取り上げて指導していく必要がある。相手がなんと言おうとも、自分の好き嫌いにとらわれず公平に接することが必要とされる。

児童について

この段階においては、良いことは良い、悪いことは悪いと公正、公平に振る舞う態度がとれる一方、自分の好き嫌いにとらわれて、平等ではない接し方をしてしまうこともある。

まだまだ他律的であり、他人の目を気にするところがあるので、主体的な判断を下せないこともある。積極的に行うべき良いことと、人間としてなす

べきではないことを正しく区別し、公平な態度を養うことが大切である。

そこで、集団生活になじみ、社会性を身に付けていくこの時期に、自分の好き嫌いにとらわれず、どの友達とも公平に接することのできる態度を養う必要がある。

教材の特質について

本教材は、仲の良いゆうすけから、人気のカレーをたくさん配膳してほしいと頼まれたたかしの様子が描かれている。

誰にでも同じように接したいと考えるたかしの立場に立って、自分ならどうするか、またのその理由を考えることで、公正、公平に関わる価値理解や人

間理解を行うことができる。

たかしの心情やその先の言動を考えさせることを通して、自分の好き嫌いにとらわれず、どの友達とも公平に接することのできる態度を養うことができる教材である。

出典：編集委員会作

評価のポイント

- ①自分の好き嫌いにとらわれず、公平な態度をとることの素晴らしさについて考えることができたか。
- ②間違っていることを、間違っていると言おうとする道徳的態度を養うことができたか。

導入

展開

終末

学習活動

指導上の留意点

1. 学習課題を設定する

- 友達が悪いことをしているのを見たとき、
どうするか。
- ・注意する。
- ・黙っている。
- ・相手によって違う。

- 学校生活における身近な出来事を発表させる。
- そのときの気持ちを聞くが、あまり深入りしない。

たかしは、しばらく考えてから最後になんと言ったのだろう。

2. 教材「もっと ちょうだい」を読んで話し合う

- ①「もっとちょうだい」とゆうすけさんに言われたとき、たかしはどんなことを考えたのだろう。
- ・みんな同じじゃないといけないよ。
- ・ゆうすけは仲良しだから多くしたい。
- ・どうしよう。
- ②「たかしがそんなことをするわけじゃないでしょう。」と言われたとき、たかしはどんなことを考えたのだろう。
- ・確かにそうだな。
- ・でも、みんな同じ量にしなきゃいけない。
- ・どうしよう。

- 仲の良いゆうすけだから多くしてあげたい気持ちと、ひいきしちゃうと不公平に接しようとするたかしの両方の気持ちを考える。
- 役割演技を通して、よいと思うことを進んで行おうとする気持ちと、それでも言えないという気持ちを表現させる。
- 悩みは変わらないが、心の変化に注目させる。

3. 学習課題に戻って考える

- ③たかしは、しばらく考えてから最後になんと言ったのだろう。
- ・やっぱりゆうすけだけに多くできない。
- ・みんな同じにしなきゃだめだよ。
- ・一人だけ多くするのはずるいよ。
- ④たかしと同じように、できたこと、できなかったことを友達と伝え合おう。
- ・弱い者いじめをしている子に、「そんなことははいけないよ」と言うことができた。
- ・友達の物を壊してしまった子を見たけれど、注意することができなかった。

- 悩んだけれど、自分の好き嫌いとらわれないで接することの大切さを選んだたかしの気持ちを考える。
- 【評価】 公平な態度をとることの素晴らしさについて、考えを深めることができたか。(観察)

主体的・対話的で深い学びのために

- ◆身近な生活の中で、良いと思ったことを進んで行った経験、行えなかった経験をペアやグループで話すことによって、実践意欲を高める。

4. 教師の説話を聞く

自分の好き嫌いとらわれないで行動できた経験を聞く。

- 公正、公平に接した後に感じる「さすがさ」について話す。

もっと ちょうだい



板書

板書例と指導の流れ

役割演技を通して、良いと思うことを進んで行おうとする気持ちと、それでも言えないという気持ちを表現させる。

もっと ちょうだい

たかしは、しばらく考えてからさいごに何と言ったのだろう。

もっとちょうだい。

たかしがそんをするわけじゃないでしょう。

- ・ひとりだけ多くすることはできない。
- ・さいごに足りなくなるかも。
- ・なかよしだしな。
- ・なにかされるかも。
- ・どうしよう。



- ・よいとおもったらする。
- ・どの友だちにもこうへいにする。

- ・そんなことをしてはいけない。
- ・たしかにそうだ。
- ・でもなかよしだから。
- ・だめ。だれにでもびょうどう。
- ・どうしよう。



板書例

授業の流れ

- (1) 友達が悪いことをしているのを見ました。あなたはどうしますか。
- (2) 教材「もっとちょうだい」を読みます。
- (3) 「もっとちょうだい」とゆうすけさんに言われて、たかしはどんなことを考えたでしょう。
- (4) 「たかしがそんをするわけじゃないでしょう。」と言われて、たかしはどんなことを考えたでしょう。
- (5) たかしは、しばらく考えてから最後になんと言ったでしょう。
- (6) たかしと同じように、できたこと、できなかったことを友達と伝え合いましょう。
- (7) 良いことを行うために、どんなことが大切なのでしょう。
- (8) 先生が小学生のときの話をします。

授業を活性化させるコツ

◆改めて自分の好き嫌いにとらわれないで行動することの難しさを、教師も児童と一緒に考え直す。

自分の好き嫌いにとらわれて行動してしまった経験は、大人である教師にも思い当たることがあるのではないだろうか。この内容項目で授業を行う際は、教師も、それができなかったことがあると考えてから授業に臨む姿勢が大切である。教師も人間なので、できないことも多い。それをすべて児童に話すべき

ではないが、授業前に考えておくことで、児童の考えに親身になって共感することができる。

すると、たかしがゆうすけに「ひいきをしちゃいけない。」という際の勇気や、「ごめんね」と付け加える友情など、様々な関連価値についてもおさえることができる。その関連価値を理解しながら、公平公正な態度を養う必要がある。



教材の吟味・具体的な活用方法

本教材の構造

①内容項目を意識し、たかしの気持ちの揺れ動きをしっかりとらえる。

この教材を読んだ児童は誰もが、ゆうすけが悪く、ゆうすけの言うことに応えるべきではないと言うだろう。しかし、それでは本当の意味でたかしの気持ちになれていない。言われて困っているたかしの本当の気持ちを考え、カレーを多く配膳してしまいそうになるたかしの気持ちをより深く考えさせるべきである。その揺れ動きを考えた上で、最後にたかしが言った言葉についてクラス全員で考えるべきである。

②できない気持ちを考えさせる。

低学年は、良いことは進んで行うのは当たり前であると考えている児童が多い。しかし、実際の場面になるとできない児童も多い。だからこそ、どの段階でもゆうすけのことを考えて迷っているたかしの気持ちも考えさせる。人間理解のためのこれらの発問によって、中心発問でさらに深く考えさせる。



「考え、議論する」授業のポイント

道徳的価値を理解させるために

揺れ動くたかしの気持ちも考えさせ、ねらいとする価値に迫らせよう

たかしは、始めからきちんと断っている。しかし、第一発問でも中心発問でもずっと迷い続けているのである。どちらの発問の際にも、どの友達にも公平に接するべきという気持ちと、少なからずという気持ちで葛藤しているたかしの気持ちを考えさせる。

自己を見つめさせるために

教材の主人公を自分に重ね合わせて振り返ろう

低学年は、正しい発言をしながらも、実際はできていないことも多い。そうならないためにも、自分だったらどうするかを問うことで、自分のこととして考えられるようにする。

多面的・多角的に考えさせるために

ペアや全体で、役割演技に取り組もう

このように、揺れ動いているたかしの気持ちを考えるために、役割演技は有効である。前に出て役割演技をさせた後、見ている児童にたかしはどんなことを考えたのか問うことで、クラス全員の学びが深まっていく。

自己の生き方についての考えを深めさせるために

今までのことではなく、これからのことを考えよう

自分の好き嫌いにとらわれて行動してしまったことは、日常生活にたくさんある。自分のこととして考えたときに、過去のできなかったことではなく、これからどうしていきたいかに目を向けさせたい。

指導内容の系統性・発展性、各教科等との関連

道徳科（2年）——公正、公平、社会正義

3「およげないりすさん」（だれとでもいっしょに）

25「つくえふき」（分けへだてのない心）

「もっと ちょうだい」（だめなことはだめ）

特別活動——学級や学校の生活作り